

熊毛地区のみならず、鹿児島県内及び全国からいただいた反対署名が大きな力となりました。

伊藤鹿児島県知事は、熊毛地区の住民の過半数を超えた署名状況の報告を受け、11月21日(月)に自ら一川保夫防衛大臣を訪れ、米軍空母艦載機離着陸訓練(FCLP)を移転しないよう要請を行いました。

◆伊藤鹿児島県知事の一川保夫防衛大臣への要請活動について

伊藤鹿児島県知事は、協議会が、反対署名が熊毛地区の住民の過半数を超えたことを報告した際に、「過半数の署名というのは重い」と述べており、県知事が従来から発言されている「地元の意見を尊重する。」との考えから、11月21日に一川保夫防衛大臣に馬毛島へのFCLP施設の移転を行わないよう要請を行いました。

県知事は金子万寿夫議長とともに一川防衛大臣を訪問し、

- ①地元1市3町における反対署名活動において、住民の半数以上の反対署名が集まったことは、地元の意志集約としては重い
- ②FCLP施設の馬毛島への移転が実現した場合は、「当然、沖縄の負担軽減につながるような利用もされる。」とした北澤前防衛大臣の発言により、地元の不安や憤りは一層強まっている

として、地域住民の意向が最も重要であり、国においてもこのような現状を十分に把握して、**馬毛島へのFCLP施設の移転を行わないよう**要請文を提出しました。

それに対して、一川防衛大臣は、「今後も防衛省の考え方を説明させていただきたい。」と回答したようです。

○要請活動後の会見において

要請活動後の会見において、「今後の県はどういった行動を行うか」という質問に対して、県知事は「議会も含めて、**地元がどう動くか**」と発言しており、今回県知事がしっかりと反対の意思表示をされましたが、馬毛島にFCLP施設の移転を実施させないためには、県との協力は不可欠であり、協議会は、南大隅町及び三島村等の周辺自治体と協力しながら今後もしっかりと意思表示を行っていきます。

◆一川防衛大臣の発言について

一川防衛大臣は、伊藤鹿児島県知事及び金子鹿児島県議会議長がFCLP施設の移転について反対の要請活動を行った翌日である11月22日の記者会見において、「米軍再編に係る馬毛島への経費を2012年度予算に盛り込みたい」との発言を行いました。

協議会は、6月1日に防衛省へ反対の要請活動を行い、6月28日には地元の同意がないまま日米共同文書に馬毛島が明記されたことに対して防衛省へ抗議を行い、10月20日にはみなさんの意志である7万人もの署名を防衛省へ提出し、改めて反対の意思表示をしました。

鹿児島県知事においても、6月8日に防衛副大臣へ地元には十分説明を行うよう要請し、7月25日には防衛副大臣に対して頭越しの日米共同文書への馬毛島明記に対して抗議文を提出しており、県知事が自ら防衛大臣に直接反対の意志を伝えた翌日にこのような発言がされたこと自体、地元を無視し、強引に移転を進めようとしており、決して許されるものではありません。

今回の一川防衛大臣の発言のみならず、今までの防衛省の対応をみても、もし、馬毛島にFCLP施設が移転された場合、地元には何の説明もないまま基地として拡大されていくのではないのでしょうか。

○一川防衛大臣に対する抗議活動について

協議会は、一川防衛大臣の馬毛島関連の2012年度予算計上発言を受けて、11月30日に抗議活動を行うこととしています。

一川防衛大臣の発言は、鹿児島県知事及び鹿児島県議会議長が反対の要請を行った翌日であり、防衛省は、今まで通り地元住民の意思を軽視しているとしか考えられず、強い不信感を抱かざるを得ません。

地元の意志を無視して進めることはないと言いつつ、あくまでも地元の頭越しに強引に移転を進めようとする態度は、決して許せるものではありません。

協議会は、断固抗議し、2012年度予算計上の考えの撤回並びに日米共同文書からの削除及びFCLP施設候補地からの除外を強く求めることとしています。

抗議活動の内容等は、次回の協議会だよりにて詳しく紹介します。